

## 何が始まったのだろうか？

北清 康二

健康のために、昼食後散歩をしています。ここしばらくは門を出て右側に向かうコースを歩いていました。気分を変えるために、その日、3月29日は左側に向かいました。左側コースは路面電車が走っているので、幾駅か北上した後に、歩いて戻ってくる方法をとっています。終点駅まで行き戻り始めた時、いつもと様子が違うことに気づきました。大通りの両側の住宅を取り壊しているのです。歩道上に市民が集まり、口をポカンと開けて取り壊し作業を眺めています。



何が始まったのだろうか？しばらく歩いて、道沿いの壁に張り紙を見つけました。



題目は、「太原市人民政府 - 中環道路及び府東府西街改造工事の通知」で、2013年3月3日の日付の上に人民政府の印が押してあります。

内容は、1. 改造の範囲・・・。2. 交通渋滞の解消と道路網整備のため、拡張道路幅

50m 内の違法、臨時、立て増し建物、電線、あばら家など交通の阻害となるもの、景観を悪くするものは、その地域は通知受領後 3 日以内に自主的に取り壊せ、3 日を超えて壊してないものは強制的に取り壊す。その場合の取り壊し費用は該当する地域が負担する。3. 改造範囲の違法、臨時建物は取り壊しに伴う損害保証は一切しない・・・。  
大雑把ですが、以上です。



写真の建物に壁に、丸の中に「拆（チャイ）」と書かれています。この文字を書かれたら、その建物の命運は尽きたも同然です。

この 3 月、太原市に同じ山西省の大同市から耿彦波氏が異動してきました。この方、前任の大同市の市長在任中も旧市街を復古するということで、数百億を掛け、旧市内の新しい建物を取り壊し古い建物を修復するということを行っています。大同市民の評価は、「これまでに無いやり手だ」、「100 億の負債を残していった」と意見が大きく割れているようです。

個人的には、携帯電話を買うにも、鉄道に乗るにも、宿に泊まるにも届出が必要なこの国に、違法建築など建てられるのかという疑問が湧くのはさておいて。

1 ヶ月が経過した 5 月、道路が封鎖され本格的に掘り返し始めました。封鎖された間の商店の店主に聞いてみました。「お客は来るの?」「極端に減るだろう」「市は損害保証してくれるの?」「いいや」でした。



政治体制の違いを大きく感じた出来事でした。  
日本に生まれて幸せだった。